

# みき通信

日本共産党 町議会議員  
くぼたみき活動報告



第103号 2021年10月

発行 がんばれくぼたみきの会

連絡先 葉山町堀内2100-124 875-7126 (阿部)

## 政権交代で明るい未来に

10月4日臨時国会がされ召集自民党の岸田文雄総裁が首相に選出されました。政府は憲法53条による野党の臨時国会召集要求を80日間も拒否。**今回の国会招集は、野党要求に応えたものではなく、総裁の交代による首相指名のためという、自民党の都合で行われたものです。こんな勝手な行動を、このまま許してよいのでしょうか。**

2015年9月の安保法制（戦争法）強行など、憲法を破壊し、立憲主義を踏みにじる政治を進め、「森友」「加計」「桜を見る会」の問題など、政治を私物化させた最悪の安倍・菅政治。**このような自民党を中心とする古い体質の政治では、国民を幸福にすることはできません。**

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合の発表した「衆議院総選挙における野党共通政策提言」に、野党4党(社民党、日本共産党、立憲民主党、れいわ新選組)が合意し、さらに**この共通政策実現のため、日本共産党の志位和夫委員長と立憲民主党の枝野幸男代表が、総選挙とその後の「新政権」において協力することで合意しました。**

長期にわたる腐敗した自民党政治によって、様々な思惑や利権がらみの国民不在の政治が当たり前となっている中で、「新政権」での日本共産党の閣外協力について「日本の政治が変わればいい」「大臣のポストがほしくてやっているわけではない」という志位和夫委員長のまっとうな発言を、メディアはどう受け止め報道したのでしょうか。**いよいよ総選挙です。腐りきった古い政治を断ち、市民と野党による新しい政治に変えるには、明るい未来を開くための一人ひとりの自覚と行動が求められています。**

## 令和5年4月 中学校給食開始へ

町議会議員 くぼた みき

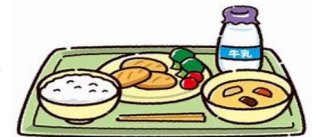
「本当に始まるの？また延期では」という声が聞こえてきそうな中学校給食。コロナ禍の影響で給食センター建設を延期し、中学校給食実施の「サウンディング型市場調査」を経て、暫定案が議会に示されました。

開始時期は令和5年度当初、方式は上山口小学校を親校とし葉山中・南郷中3校分を調理する親子方式か、弁当箱で配食するデリバリー方式(喫食率75%を想定)。どちらも民間事業者が調理がします。今後、親子方式のコストをはじめ詳細の検討を行い、令和4年度当初予算への計上を目指すとしています。

親子方式を採用した場合の対象校は、1番最初のセンター候補地だった上山口小学校です。配送車の出入りが増え通学路に対する不安が払拭できないとして候補地から外れた経緯があります。また、他の3小学校は公営、上山口小学校給食は民営となり、これまでとは全く別の問題が生じてきます。また、約170食分を調理している上山口小給食調理室で、増築は行わず器具の入れ替えだけで中学校分とあわせ1000食以上の調理となり、通学路の安全、労働環境や食の安全等、課題は山積みです。

大型電子レンジを利用して再加熱するお弁当、デリバリー方式を採用した場合、全員喫食は難しいとし選択制を考えています。また、現在声上げをしている事業者は、衛生基準である2時間喫食が難しい場所にあるといえます。

給食センター建設までの暫定措置としながらも、最低でも5年間実施を想定。「サウンディング型市場調査」では、いずれの業者からも民営化が望ましいという声が出たといいますが、民間事業者の急な事業者撤退による学校給食提供の中止という事例もあり問題です。学校給食の民営化が増えた中でも「葉山町学校給食基本構想」で公設公営を決定した葉山町。給食センター建設地の安全性も含め、今後も注視していきます。



## 葉山町のワクチン接種について (10月4日記者発表抜粋)

\*福祉文化会館での集団接種は11月13日で終了。今後は個別医療機関での接種となります。予約方法は従来通り(コールセンター・予約システム)

\*令和4年開始予定の3回目の追加接種は調整中。

### 予測モデルの礎をつくる

真鍋氏は1950年代末からアメリカに渡り、大気を「地面から垂直に立った一本の円柱」と仮定し高度ごとの温度を計算する「1次元大気モデル」を考案しました。そして、このモデルを使って二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が増増したときの世界の気温がどの程度上昇すること

地球の気候は大気、海洋、陸地面などの複雑な相互作用で決まります。3氏は、こうした複雑な現象を物理学で理論化する革命的な貢献をしたと評価されました。

今年のノーベル物理学賞は、地球温暖化を予測する研究に大きく貢献した米プリンストン大学の真鍋淑郎上席研究員ら3氏に授与されることになりました。

## 主張

### ノーベル物理学賞

な気候を予測するための気候モデルの基礎となりました。  
真鍋氏と同時に受賞する独マックスプランク気象学研究所のクラウス・ハッセルマン教授は、変化する気象現象と長期的な気候予測を結びつけるモデルを作成し、地球温暖化に対する人間の影響を特定

を67年に発表しました。これが地球温暖化の定量的予測の基礎となる画期的な研究となりました。  
さらに大気全体の流れをシミュレーションする3次元構造のモデルを開発し、海洋の影響も組み込んだ「大気・海洋結合モデル」を69年に発表しました。これが複雑

する方法を開発しました。  
真鍋氏らの成果は、国連IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の議論に生かされ「今の異常気象の多くは人間活動が原因で、このままでは気象災害がもっと甚大で深刻になる」と断言する第6次報告書(8月)に結実しました。

## 気候危機への警告 向き合う時

日本共産党はこうした科学者の警告を受け止め、気候危機打開の戦略を発表し、CO<sub>2</sub>排出を2030年度までに50%、60%削減する大改革を掲起しました。  
真鍋氏らの受賞を契機に、気候危機を打開するために力を合わせることを改めて呼びかけます。

日本共産党はこうした科学者の警告を受け止め、気候危機打開の戦略を発表し、CO<sub>2</sub>排出を2030年度までに50%、60%削減する大改革を掲起しました。

真鍋氏は、名古屋大学の環境学

研究科の広報誌の対談で、CO<sub>2</sub>濃度の気候への影響の研究は、当初は温暖化を憂えてのものではなく「道草」で始めた知的好奇心にもとづく研究だったと語っています(69年)。  
日本学術会議など13カ国の科学アカデミーが発表した「Gサイエンス学術会議共同声明(20)」は「画期的なブレイクスルーへと結実するの

が、そして真理探求型で直接的な応用を志向しない研究の結果であることは、科学のパラドックス(逆説)である」とし、減少している基礎研究への投資の回復を提言しています。

真鍋氏は、名古屋大学の環境学研究科の広報誌の対談で、CO<sub>2</sub>濃度の気候への影響の研究は、当初は温暖化を憂えてのものではなく「道草」で始めた知的好奇心にもとづく研究だったと語っています(69年)。

真鍋氏の受賞は、研究者が好奇心にもとづく基礎研究を振興する政策へと抜本的に転換することが求められています。

このころ、安倍晋三・菅義偉政権による「アベノション政策」は「基礎研究から実用化までを見据えて一貫運営で研究開発を推進する」という応用志向に偏り、基礎研究をおろそかにしてききました。岸田文雄首相は、科学・技術政策を成長戦略の道筋に位置付けており、研究力低下を招いた矢政への反省がありません。

心にもとづくやりだれことを自由に研究できる環境をつくる。ところが、政治の役割であることを教えています。

### 基礎研究の振興こそ

しんぶん 赤旗より